



令和8年度のイベント予定



ホームページは
こちらから↑

詳細は、開催1ヶ月前までにホームページ等でお知らせします。
最新情報を当所のホームページでご確認ください。
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken>)

◎自然ふれあい講座

みんなで温暖化ウオッチ ～セミの抜け殻をさがせ！

毎年同じ時期に同じ場所でセミのぬけがらの種類や数を調べることで自然の変化を観察します。平成24年(2012年)度から継続中で、令和8年(2026年)度は次の6会場で開催します。

▶時期

8月3日(月)～8月8日(土)(午前中)
会場ごとに開催日は異なります。

▶場所

- ・川中島古戦場史跡公園(長野市)
- ・アルプス公園(松本市)
- ・かざこ子どもの森公園(飯田市)
- ・市立大町山岳博物館(大町市)
- ・市民の森公園(上田市)
- ・鳩吹公園(伊那市)



★この他にも、「サイエンスカフェ」「施設公開・親子環境講座」等の開催を計画しています。詳細はホームページで！



長野県生物多様性センター通信

No.1

今号の特集では、長野県に新しく生まれた「生物多様性センター」を軸に、データで示す“守るべき場所”、現場で進む“守り方”、そして地域の文化・暮らしとのつながりを見渡しました。

2026年は世界的に重要な節目の年でもあります。本年開催されるCOP17(第17回生物多様性条約締約国会議)では、2030年目標(昆明・モントリオール生物多様性枠組)に対する各国の進捗が世界規模で評価されます。日本でも国別報告書の作成や生物多様性国家戦略の点検が進んでおり、今の私たちの行動が2030年の到達点を左右します。



こうした動きを“自分ごと”に引き寄せる鍵の一つが、Nature-based Solutions(NBS)です。NBSは、自然の仕組みをいかして社会課題を解決する考え方で、都市や集落では、暑さ対策・雨水対策・景観形成と生物多様性保全を同時に実現する“グリーンインフラ”として広がりつつあります。身近な公園の植生管理や、集落の水辺・斜面の保全、学校や企業での緑地づくりなど、小さな取り組みが“自然を増やしながらか暮らしを守る”手段にもなり得ます。

また、企業や金融の世界でも、ネイチャーポジティブ経済への移行が本格化しています。自然資本の見える化や情報開示の動きが進む中、地域と企業・団体が協働する場づくりが、長野県の強みを支える重要な土台となるでしょう。



センター開設は“ゴール”ではなく“入り口”です。自然とともにある信州の暮らしそのものが、未来を形づくる大きな力です。身近な自然に気づく・参加する・語り合う。その一步一步が、信州の豊かな自然を守り育てていくことにつながるはずです。

(高野 宏平・黒江 美紗子・小林 篤/自然環境部)

